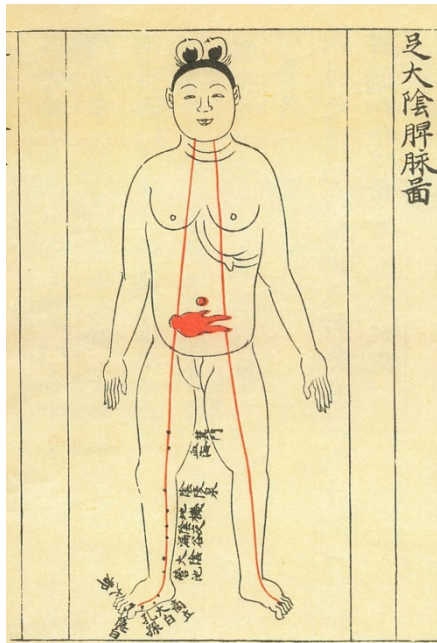
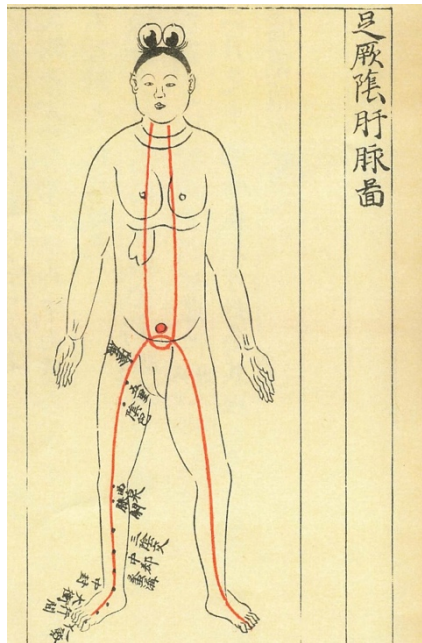


東洋医学をもっと深めたくありませんか？

小西優子

令和4年度に修士課程を修了した小西優子です。研究を始めるに当たり、最初に婦人科疾患の常用穴である「三陰交」というツボについて、注目しました。それを「穴性学」の視点で考察し、クラスター分析をしました。「穴性学」とはツボが持つ働き(性能)のことです。まだ、新しい研究分野です。「穴性学」の本の記載内容が文献によって違っていることも興味深いです。そこで「穴性学」の原流を古典文献から調べました。先行研究から「穴性学」の萌芽が『黄帝内経』にあることを示すことが出来ました。

次に研究のメインである婦人科疾患の常用穴である「三陰交」というツボについて、古典文献を調べました。その結果「三陰交」のツボの位置が現在のWHOの規定部位とは異なっていることがわかりました。平安時代の『医心方』や、その他の古典に記載された部位とは違っていました。それは現在の内踝の上三寸でなく、内踝の上八寸であったことがわかりました。そして内踝の上八寸の位置には「地機」というツボがありました。そこで「三陰交」と「地機」の



「穴性」を比較して、クラスター分析をおこないました。そしてクラスター分析と「穴性学」的考察の結果、子宮に関連するツボは「三陰交」より「地機」であったことが示唆されました。つまり文献学的には、婦人科疾患には「地機」の方が適しているということがわかりました。このことは、先行研究にはない新知見でした。

現在、「地機」のツボを使った研究論文は少なく、「三陰交」(327件2022年11月)の約10%です。まだまだ文献研究の可能性はたくさんあります。今後も、婦人科疾患の常用穴のツボをテーマにした研究を継続し、今年の秋の学会で発表する予定です。

最後に、研究の苦労話ですが、私の研究は仮説を立てましたが、うまく証明できずに悩んでいました。しかし最後まで諦めずに調べ続けたことで、新たな発見がありました。そのため、ここに掲載されている抄録と修士論文の内容に違いが生じました。

指導教官をはじめ、諸先生方、図書館員の方々、大学院の同期生達、後輩達のお力添えもあり完成できました。深く感謝いたします。

東洋医学を学びたい人はぜひチャレンジしてみてください。一人ではできないことが関西医療大学大学院ではできるようになります。